

●第一回 全中国選抜 中国日本語スピーチコンテスト●

第一回全中国選抜中国日本語スピーチコンテストを開催して

王智新



本格的な夏に入った7月21日、せみ時雨を聞きながら、東京の朝日生命ビルで第一回全中国選抜中国日本語スピーチコンテスト本選が成功裏に行われた。全国8ブロックで勝ち抜いてきた選手17名は、超満員の聴衆の前で、日ごろの学習の成果を遺憾なく発揮し、聴衆を魅了した。

最後に、一等賞（大連外国語大学）、二等賞（アモイ大学）、三等賞（東北大学）の三名と敢闘賞3名が選ばれ、盛大な授賞式が行われて閉幕した。奨の種類が少なかったのは玉に瑕だったが、各地の優勝者は本選に参加できたこと、そして日本を訪問できたことが何よりのご褒美と全員が大満足してくれた。

翌22日からは予定とおり、学校見学、会社訪問、国会参観などをし、政治家や学生をはじめ多くの日本人々との交流も行われた。そして浅草、箱根、京都などを観光して日本文化を満喫し、27日帰国の途に着いた。

今回のイベントは、私たち華人教授会議が発案し、日本経済新聞社、中国教育国際交流協会の協賛を得て、3年数ヶ月の準備と努力を積み重ねて実行に移された。しかし昨年、準備万端となったところで、まさに花に風という言葉のように中国国内でデモが起こったため延期となってしまった。それが、今年の4月になって

やっと再開が決定されたのである。

広州での華南ブロックの予選を皮切りに華中、西南、西北、華北、華東、華北、京津など8ブロックで、日本語専攻の若者たち2800人が熱戦を繰り広げた。その結果、西安外国語大学、河北経済貿易大学など全国各地の大学生17名が選ばれ、東京での本選に参加することとなった。最後の東北ブロック選が終了したのは、6月中旬になっていた。本選の開催が一時危ぶまれたが、関係者の努力によって無事開催することができた。

なお、審査員として各ブロック予選に赴いて下さった各位に厚く御礼申し上げたい。各審査員が万難を排して献身的にこの事業に協力して下さったおかげで、今回の成功を収めることができた。また、期末試験の金曜日にもかかわらず、本選会場に駆けつけて暖かく応援して下さった学生諸君にも感謝したい。

今回の中国初の全国的スピーチコンテストは、中日関係の極度な悪化により一年延期という経緯があったためか、各方面から多大な期待が寄せられた。そのため、中国の日本語学習促進に貢献したばかりでなく、中日両国国民の相互理解と相互信頼の増進にも大いに役立ったと思われる。また、中国国内の新聞だけでなく、日本の報道機関も大々的に取り上げてくれ、華

人教授会議の日本社会における知名度はさらに高まった。それはさておき、本企画の趣旨、日本語学習のモチベーションの向上、両国民の相互理解増進という目的が達せられたことは、何よりも嬉しく感無量である。

もっとも、最初ということもあって、多くの欠陥もあった。それは各ブロックの責任者からの指摘により、真剣に総括を行った。

コンテスト終了後、各関係者が東京で会合を持ち、今後のことについて話し合った。その結果、全員一致で来年度も継続して開催することが決定された。その詳細については、別途協議することとなっているが、最終的には、定期的な行事として長期にわたって定着するよう努力することが約束された。

日本語スピーチコンテストや作文コンクールは、他にも複数の団体や個人が取り組んでい

る。しかし、私たちが行った今回の第一回全国コンクールは、全国8大ブロックの各予選で選ばれた上位2名の選手が東京での本選に参加するというもので、全国をカバーしているという特徴を持つ。香港、マカオは勿論のこと、台湾出身者も含まれている。それから、中国政府教育部の協力を得て実施したという点では権威性という特徴も有する。この二つの特徴は、今後も維持していきたい。

最後に、今回のコンテストは、JFEホールディングス株式会社の協賛、日本航空の協力の下、外務省、文部科学省、国際交流基金、NHK、そして中国駐日本国大使館、中国日本友好協会、中国教育報、中国教育テレビ局など実に多くの強力な後援団体のご支援とご指導を賜った。関係者の皆様に深く感謝の意を表すると共に、今後ともご協力を宜しくお願いする次第である。

(宮崎公立大学教授)